

安全運転アドバイス

「よくある事故」の防止編

自動車事故の
7割以上

自動車事故※1の7割以上を

追突事故

バック時の事故

出会い頭事故

右左折時の事故

が占めています。

※1 当社自動車保険において、自動車の運転に関して保険金をお支払いした事故。

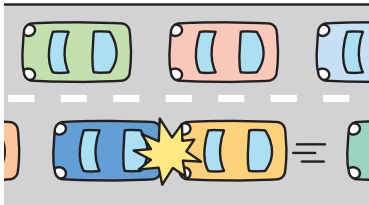
事故防止のポイント

自動車事故の **21.0%**

追突事故を防止するために

主な原因：**脇見運転・動静不注視※2** 等

- ・前の車の不意な減速・停止を予測しながら運転。
- ・低速で走行中であっても、しっかり集中。
- ・余裕を持った車間距離を確保。



特に注意する場所

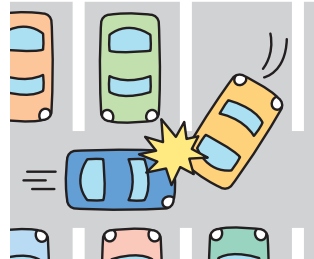
直線道路・交差点

自動車事故の **19.3%**

バック時の事故を防止するために

主な原因：**安全不確認** 等

- ・ミラーやバックモニターだけに頼らず、目視で安全確認。
- ・見えないときは、いったん下車して安全確認。
- ・ゆっくりと歩くくらいの速度でバック。



特に注意する場所

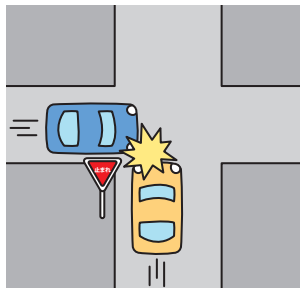
駐車場

自動車事故の **18.0%**

出会い頭事故を防止するために

主な原因：**安全不確認・一時不停止** 等

- ・一時停止の道路標識がある交差点では、完全に車輪を止めて、左右の安全を確認。
- ・住宅街では自転車・歩行者の飛び出しに注意。



特に注意する場所

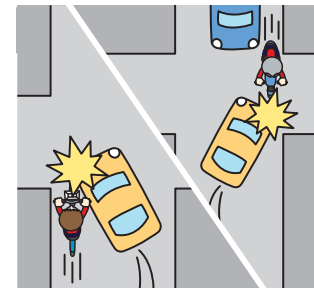
信号がない交差点

自動車事故の **13.9%**

右左折時の事故を防止するために

主な原因：**安全不確認・動静不注視※2** 等

- ・右折時は、対向車の陰に隠れた危険を予測。
- ・左折時は、車両の死角を意識し、左後方の巻き込みに注意。
- ・横断歩道上の歩行者・自転車にも十分に注意。



特に注意する場所

市街地の交差点

※2 動静不注視とは、相手の存在を発見していたが、危険はないと判断し、その動静の注視を怠ったことをいいます。

あたり前のことを確実に行うことが事故防止につながります。ぜひ安全運転をお願いします。

安全運転アドバイス

交差点編

交差点は、車や人が複雑に交錯し、最も事故が起こりやすい場所です。そこで、交差点を安全に走行するためのポイントをまとめてみました。

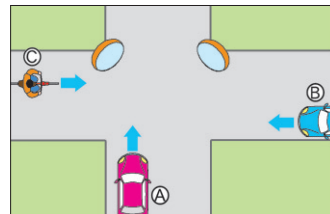
✚ 信号機のない交差点

見通しの悪い交差点では一時停止か徐行を

「止まれ」や「徐行」の標識がある交差点ではもちろんのこと、そうでない交差点でも、万一来てて一時停止か徐行をして、左右の安全確認をしましょう。

交差点のミラーに頼らない

ミラーでは相手との距離感がつかみにくいうえに、自転車や歩行者を見落としやすいので、ミラーだけに頼らず、必ず自分の目で直接左右の状況を確認しましょう。右図のA車から交差点の左右を見た場合、右側の乗用車(B車)のみに注意が向き、左側の自転車(C車)を見落としやすいので、注意してください。



対向車の通過直後が危ない

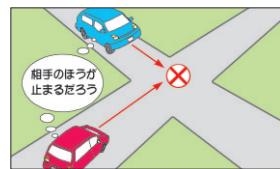
対向車の通過直後に右側から、歩行者や自転車が飛び出してくることがよくありますが、対向車の陰に隠れて発見が遅れやすいので注意してください。

住宅街の小さな交差点を見落とさない

住宅街には、小さな交差点やT字路がたくさんあります。路面の「+」や「T」の標示に注意し、見落とさないようにしましょう。

見通しのよい交差点でも油断は禁物

見通しのよい交差点でも、よく出合頭の事故が起こります。たとえ自分のほうが優先であっても「相手が止まらないかもしれない」と考えて、手前で減速し、相手の車の動きを確かめることが大切です。



✚ 左折時：右折時

① 横断歩行者の間をすり抜けられない

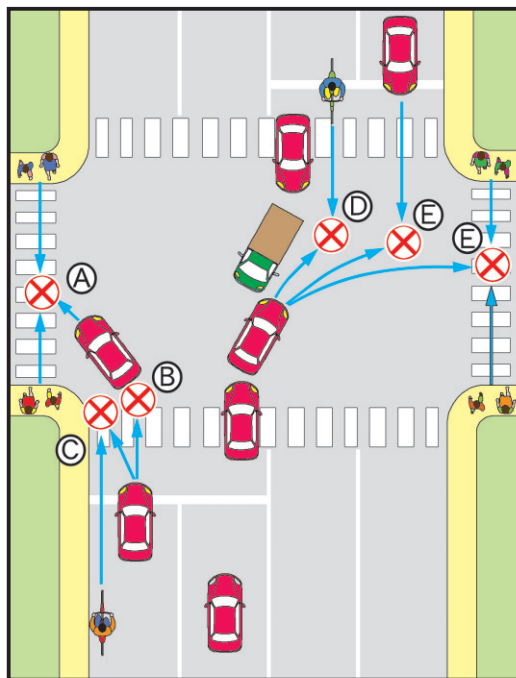
横断歩行者の切れ目をぬって強引に左折していくと、歩行者が突然走り出したときなどは大変危険です。横断歩行者がいるときは手前で停止し、通過を待ちましょう。

② 先行左折車の急停止に注意

先行左折車が横断歩行者のために急停車することがあります。左折時はいつでも止まれるくらいの速度に落とし、先行左折車の動きに注意しましょう。

③ 早目の合図と左後方の二輪車確認

左折の合図を早目に出し、後続車に左折の意図を確実に伝えるとともに、サイドミラーなどで、左後方から二輪車が接近していないかどうかを必ず確認してください。



D 直進二輪車を見落とさない!!

二輪車は四輪車に比べて小さいため見落としがちです。特に対向右折車がいるときは、その陰に隠れて二輪車が見えにくいことがありますので、要注意です。

E あせった右折は禁物

対向車が接近しているにもかかわらずあせって右折をすると、対向車と衝突したり、横断歩行者を見落とすおそれがあります。右折時は無理をせず、「待ち」の姿勢に徹しましょう。

道を譲られたときも対向車の陰に注意

対向車に道を譲られたとき、一気に右折すると対向車の陰から出てきた二輪車と衝突してしまうことがあります。道を譲られたときも、対向車の陰の安全確認を忘れずにしましょう。



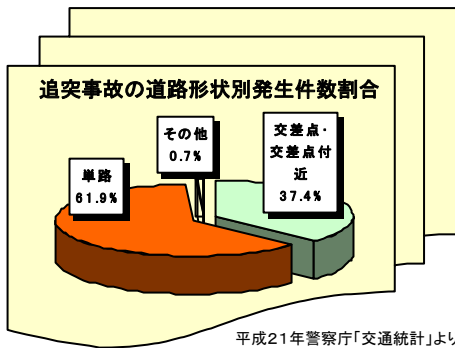
安全運転アドバイス

追突事故防止編

追突事故は全交通事故の約32%を占める、一番多い事故です。前を見て運転しているはずなのに何故こんなに多くの追突事故が発生するのでしょうか。



追突事故の約62%は単路で発生、交差点・交差点付近は約37%



単路でなぜ多い？

一見単純に見える単路走行では、運転者は「前車が減速・停止することはまずないだろう」という思い込みのもとに、油断して運転していることが考えられます。



追突事故の原因と、追突しない運転・されない運転のポイント

原因

前車は
「止まらないだろう」
「減速しないだろう」
という思い込み

しない
運転

+

され
ない
運転

・動静の不注視
・運転中の脇見
・漫然とした運転
・車間距離不足
・スピードオーバー

●低速では、油断して脇見をしやすくなります。緊張感の持続が大切です。

●車線変更の際、後方車両の確認後はすぐ目線を前方に戻しましょう。

●強引な割り込みをする車がいっても、道を譲るくらいの余裕ある運転を心がけましょう。

●周りの車や道路の状況から危険を予測して運転しましょう。

●交差点に近づいたら意識して車間距離を広くとりましょう。

●停止する場合は予めブレーキを踏み、後続車に予告しましょう。

●渋滞の末尾ではハザードランプを点滅させ、後続車にいち早く渋滞を知らせましょう。

●夕暮れ時、悪天候時は早めに尾灯を点灯をし、自車の存在を知らせましょう。

●強引な割り込みは避け、余裕ある運転を心がけましょう。

●後続車を定期的にチェックし、車間距離が不十分な場合、道を譲り先に行かせましょう。

安全運転アドバイス

カーブ・坂道編

カーブや坂道は、遠心力や重力などの力が働くうえ、さまざまな錯覚が起こる危険な場所です。そこで安全なコーナリングや起こりやすい錯覚などについてまとめてみました。

坂道走行ここがポイント

上り坂での停止時は、先行車に接近しすぎない

上り坂に停止している大型車は後方が見えず、重力の影響を受けやすいため発車時に後退するおそれがあるので、注意が必要です。



下り坂の錯覚に注意

長い下り坂の途中で傾斜がゆるやかになると、下り坂なのに上り坂と錯覚し、アクセルを踏んで、思わぬスピードが出る場合がありますので、スピードメーターでチェックしましょう。



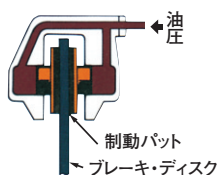
長い下り坂ではフットブレーキを多用しない

長い下り坂でフットブレーキを多用すると、フェード現象やベーパー・ロック現象でブレーキが効かなくなることがあります。低速ギア（AT車はLか1、2）に落とし、エンジンブレーキを活用するようにしましょう。



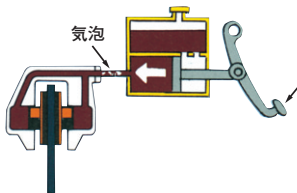
●フェード現象

制動パッドやブレーキディスクなどが過熱して、摩擦力が減少してしまい、ブレーキの効きが悪くなる現象です。



●ベーパー・ロック現象

ブレーキ液が過熱し、中に気泡ができてしまい、ブレーキペダルの圧力が伝わらなくなる現象です。

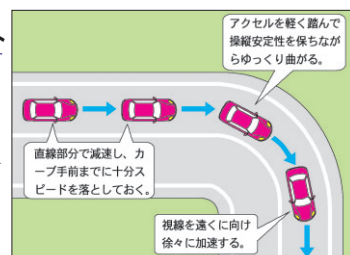


カーブ走行ここがポイント

進入時のポイント

カーブ走行の基本はスローイン・ファストアウト

カーブ走行では、ゆっくり入って、速く出る、つまり「スローイン・ファストアウト」が基本です。カーブ手前の直線部分で十分減速し、カーブ内ではブレーキを踏まないように、また、対向車にも十分注意しましょう。



カーブの先の死角に注意する

見通しの悪い山道などのカーブでは、前方が死角になっているため死角内の駐車車両やセンターラインをはみ出した対向車、二輪車などと衝突する危険があります。死角内の危険を予測しましょう。

通過時のポイント

センターラインオーバーをしない

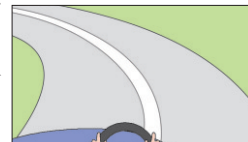
錯覚によるセンターラインオーバー

右カーブは自車線の道路幅が先細りし、逆に対向車線が広く見えるので対向車線に向けてハンドルを切りやすくセンターラインオーバーの危険があります。一方、左カーブは、自車線が広く見えることからスピードを出しやすく、それだけ遠心力で対向車線に引っ張られる危険があります。このようなカーブでの錯覚には十分注意しましょう。

右カーブでは対向車線が広く見える

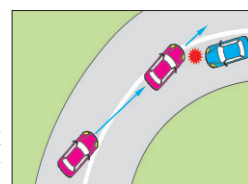


左カーブでは自車線が広く見える



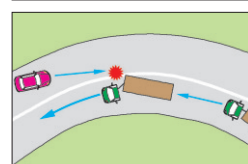
カッティング走行によるセンターラインオーバー

右カーブを走行するとき、カーブを速く抜けようとして、「カッティング走行」をするドライバーを見かけますが、対向車と衝突する危険があるので、必ず自車線に沿って走行しましょう。



対向大型車のセンターラインオーバー

右カーブで、大型トレーラなどとすれ違うときは、トレーラ部分がセンターラインをオーバーすることがあるので注意が必要です。

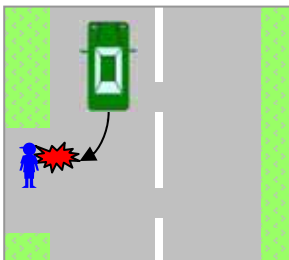


安全運転アドバイス

バック事故防止編

車はもともと前進することを想定して作られているので、特性上バックすること自体無理のある行為とも言えますが、ちょっとした注意や工夫でかなりの事故を減らすことができます。

主な事故原因と背景



★安全確認不足

車両がつくる死角を軽視したり、入念な安全確認を行わない

★慣れ、油断、思い込み

構内や駐車場など、日常的に同じ場所でバックを繰り返していると、慣れや油断から安全確認が疎かになってしまう

★周囲の状況に注意が向く

近くにいる他の車や人、駐車車両に注意が奪われると、後方の確認が不十分になる

駐車場内の事故例



★バックする前に、後ろを確認したときにはいなかった子供が、車の後方に移動してきたのを見落とし事故となった。

バックする時は、
しっかり安全確認
をしよう！



事故はこうして防ぎましょう

1. 安全確認を徹底する

乗り込むときの安全確認はもちろんのこと、バック中も周囲の状況を見ながらバックしましょう。同乗者などがある場合は誘導してもらうとよいでしょう。また、バック中に危険を感じたら、面倒がらずに降車して確認するようにしましょう。

2. バックモニターに頼り過ぎない

バックモニターだけに頼りすぎると、周囲の状況把握が疎かになる恐れがあります。安全確認は、自分の目で直接見たり、ミラーも活用して行うようにしましょう。

3. すぐ止まれるスピードでバックする

バック時にスピードを出すと、それだけ危険を招くことになります。人がゆっくり歩く程度のスピードでバックするようにしましょう。

4. 窓を開けて音を聞く

バイクの音や子供の声などが聞こえたら、再度安全確認を行ってからバックしましょう。

5. 一呼吸おいてからバックする

安全確認後、すぐにバックするのではなく、一呼吸おいて、後方を確認しながらバックしましょう。

安全運転アドバイス

夜間・悪天候編

夜間や雨、霧、強風時などの悪天候下の運転は、さまざまな危険がひそんでいます。そこで、危険を回避し、安全な走行を確保するためのポイントをまとめてみました。



霧

まずヘッドライトをつけよう

霧にあったら、昼間でもヘッドライトをつけましょう。これは、自分の視界をよくするというよりも、他車や歩行者に自分の存在を知らせるためです。フォグランプがあれば、霧の中での透過率が高く、有効です。夜間の濃霧でハイビームを使うと、光が霧に乱反射して極度に見えにくくなることがありますので、注意しましょう。

ラインを頼りにゆっくりと

霧の中で頼りになるのは、前の車のテールランプと道路の区分線、外側線、センターラインぐらいのものです。特に自分が先頭の場合は、ヘッドライトを下向きにして、路面のラインを頼りに、これを見失わない程度にスピードを落として走るのがコツです。曲りかねた道路では、ホーンも十分に活用しましょう。



風

横風に気をつけよう

特に、高速道路を走っているとき、山合いを切りとった“切り通し”やトンネルを出たところ、谷にかかった橋などで、横風、突風によるショックを受けやすいので気をつけましょう。そのショックはかなり強く、思わずハンドルを切りたくなりがちですが、決してあわててハンドルを切らないことです。横風による事故は、風そのものによるものはほとんどなく、あわててハンドルを切りそこねたために起こるのです。



大型車の陰に入ったときは要注意

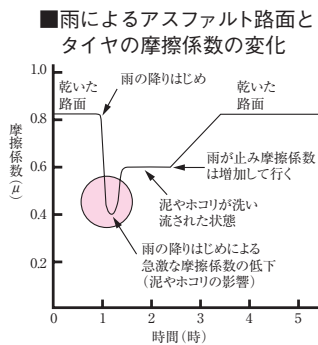
横風が強いときに、大型車を追い越すのは危険です。強い横風に耐えながらハンドルを握っていて、大型車を追い越すためその陰に入ると、急に風がなくなるため、自分の車が大型車のほうに引き寄せられてしまいます。そして大型車を追い抜けば、また強い横風にさらされ、ハンドルをとられます。このように、横風が強まったり弱まったりすることを十分計算しながらハンドルを握ることが必要です。



雨天

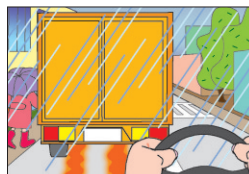
雨の降り始めがいちばん滑りやすい

雨の降り始めは、道路上の泥やほこり、油などが雨に混じってちようどグリスをぬったような状態となり、いちばん滑りやすくなります。その後は、泥などが洗い流され、かえって摩擦力はあがります。したがって、雨が降り始めてから10分くらいがいちばん要注意です。



濡れた路面を利用しよう

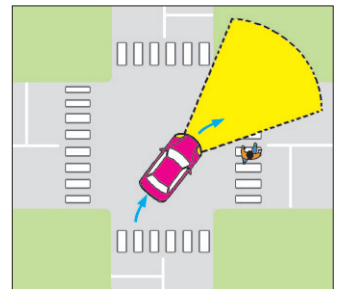
前車の床下の濡れた路面には、前々車のブレーキランプが映るので、早目に情報がつかめ、ブレーキのタイミングが遅れることも少なくなります。



夜間

ライトが照らさない部分に注意

特に、交差点を右折する時などは、曲がる方向をヘッドライトが照らさないため、右側にいる歩行者等を見落とすことがありますので、十分注意してください。



夕暮時は早目に点灯

夕暮時は、急激に暗さを増して、視認力が低下します。早目にライトを点灯して、自車を目立たせるようにしましょう。対向車のライトが照らす路面を見れば、自車のライトが届かない先の様子もよくわかります。

安全運転アドバイス

冬のドライブ編

降雪・寒冷地域の冬の道路（冬道）は、平常時に比べ厳しい条件が重なりそれが原因となる事故も多くなります。冬道の特徴と注意すべきポイントをご案内します。

1 急発進・急加速・急ブレーキ・急ハンドルは厳禁

乾燥舗装路面と比べ、冬道は極めてすべりやすく、「急」のつく操作はスリップ・スピンのもとです。

2 ハンドルとブレーキ・アクセルを同時に操作しない

手前で十分減速しカーブ・交差点に進入しましょう。

3 相手車が止まれない、曲がれないことも予想する

相手の停止線オーバー、センターラインオーバーも想定した運転をしましょう。

4 減速は早めに、右左折合図も早めに

周囲の車が余裕をもって対応できるよう早めに知らせましょう。

5 上り坂はアクセルを一定にし、下り坂は手前で減速し低めのギアでエンジンブレーキを使い、走行する

坂道はより一層ソフトなアクセル・ブレーキ操作が必要です。

6 全輪に冬タイヤ（スタッドレスタイヤ）を装着する

冬道を走行する時は全輪冬タイヤを装着しましょう。緊急的にタイヤチェーンを装着する場合は、早めに安全な場所で作業しましょう。

7 凍結しやすい場所や時間帯に注意する

トンネル出入口付近、橋の上、踏切、日陰、交差点とその手前など、時間帯では夜間や早朝の走行に注意しましょう。



安全運転アドバイス

安全な運転をするためには、運転席からは見えない死角に隠されている危険を予測することが重要なポイントとなります。死角にはさまざまなものがありますが、今回は、車の構造上の死角と看板などの工作物や駐車車両が作る死角について考えてみることにしましょう。

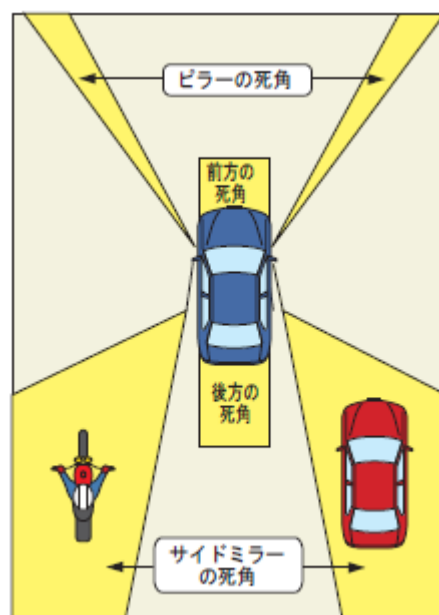


車の構造上の死角

車の構造上の死角には、主なものとして「サイドミラー（ドアミラー）の死角」、「車の前後の死角」、「フロントピラー※の死角」があります（図1）。

※フロントガラスの両側の柱部分

図 1



サイドミラーの死角

側方や後方を確認するときはサイドミラーを利用しますが、車の左右ななめ後方にはサイドミラーに映らない部分があります。特に二輪車は車体が小さいために死角に入りやすく、右左折時や進路変更時に見落としてしまう危険があります。右左折時や進路変更時は、サイドミラーだけに頼らず目視で確認するようにしましょう。

車の前後の死角

車の前後にも死角があり、後方は前方より死角が大きくなります。特にワンボックスカーのように車高の高い車は、死角がより大きくなりますから、そこに隠れている子どもの発見が遅れてしまうことがあります。車に乗り込む前には車の周囲を一周して安全を確認しましょう。また、バックするときは、バックモニターが付いている場合でも、それに頼り切るのではなく、目視で後方の確認を行いましょう。



フロントピラーの死角

フロントピラーの幅は狭いのですが、車からの距離が離れると歩行者や二輪車を見えなくするほどの大きな死角になります。そのため右左折時に直進してくる二輪車を隠したり、横断歩道上の歩行者を隠してしまうことがありますから、フロントピラーの死角を意識し、きちんと確認するようにしましょう。





工作物や駐車車両が作る死角

看板や植込みなどが作る死角

道路には看板や植込みなどさまざまな工作物がありますが、それらが死角を作ることがあります。例えば、駐車場と歩道の間に看板が設置されている場合、看板が歩道を通り抜けてくる自転車や歩行者を隠してしまうことがあります（図2）。

車道と歩道の間に植込みが設置されている場合には、その陰に子どもが隠されてしまうことがあり、特に交差点の右折時や左折時には、子どもの発見が遅れて事故につながるおそれがあります（図3）。

看板や植込みなどが死角を作っている場所では、一時停止や徐行をして必ず安全確認を行いましょう。

図2

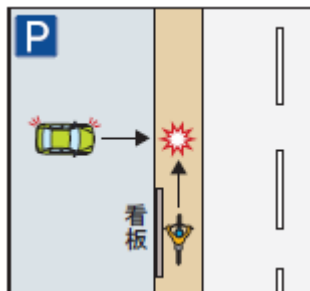
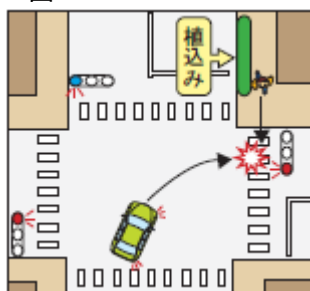


図3



路上駐車車両が作る死角

路上の駐車車両も死角を作ります。駐車車両がトラックやワンボックスカーの場合は、その陰にいる歩行者や自転車はほとんど隠されてしまいますから、発見が遅れがちになります（図4）。また、乗用車の場合でも、子どもは隠されてしまうことがあります。

商店街や学校や病院、公園付近など歩行者や自転車の多い場所ではあらかじめ速度を落とすとともに、駐車車両があるときは、歩行者や自転車の飛び出しに備えて、いつでも停止できる速度で進行しましょう。

図4



坂の頂上の死角に注意!!

上り坂では頂上の向こう側が死角となり、対向車の発見が遅れます（図5）。特にセンターラインのない坂道の場合には、道路の中央付近を走行していると対向車と衝突する危険がありますから、道路の左側を走行するようにしましょう。

また、坂の頂上付近では、徐行が義務づけられていますから、必ず徐行しましょう。

図5

